



おたふくかぜ 行政措置予防接種のお知らせ

沖縄市では、行政措置予防接種として、おたふくかぜワクチンの接種を次の内容にて全額公費（無料）で実施しています。

**内容をよく読み、保護者が希望する場合のみ、
公費で接種を受けることができます！**

（予診票は、指定医療機関に用意しています。）

実施期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

※上記期間中でも2歳になったら対象外となります。

対象者：沖縄市に住民登録のある1歳児

※これまでに、おたふくかぜにかかったことがある方や、すでに予防接種を受けた方は、接種する必要はありません。

接種回数：1回（1歳の間に1回のみ公費対象です）

実施場所：中部地区の指定医療機関 ※別紙をご覧ください

接種費用：無料

※ただし、実施期間内に指定医療機関にて接種を受けた場合に限り、（実施期間外の接種や、指定医療機関以外での接種は、公費の対象となりませんのでご注意ください！）

重要！ 行政措置予防接種について

今回の予防接種は、予防接種法に基づく定期予防接種ではなく、沖縄市が独自に行う予防接種（行政措置予防接種）となります。接種は公費（無料）で受けられますが、予防接種による健康被害が起きた場合、予防接種法に基づく救済の対象にはなりません。

ただし、行政措置予防接種に起因して死亡または身体障害を被った場合には、沖縄市予防接種事故災害補償規則に基づく補償の対象となります。（給付額は接種日時点のものから変更となることがあります。）そのほか独立行政法人医薬品医療機器総合機構に対し、疾病に対する医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金、葬祭料の給付請求ができますが、その請求は健康被害を受けた本人またはそのご家族が直接行うこととなります。

接種を希望する方は、事前に予約をしましょう！



おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）とは、こんな病気です

おたふくかぜウイルス（ムンプスウイルス）によって引き起こされます。飛沫感染・接触感染でウイルスに感染すると、2～3週間の潜伏期間を経て、両側または片側の唾液腺（特に耳の下からほほにかけて）がはれて痛みます。その他の症状として、発熱、頭痛、倦怠感、嘔吐、食欲低下などがありますが、通常1～2週間で軽快します。

感染しても症状が現れない不顕性感染であっても、キャリア（体内に病原体を保有している人）となり、唾液中にウイルスが排出されるため感染源となります。合併症としては、無菌性髄膜炎、難聴（一過性の聴力低下や回復しない難聴）、脳炎などがあり、思春期以降にかかると精巣炎や卵巣炎、睪炎をおこすことがあります。



予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（接種前体温37.5℃以上）
- ②重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ワクチン成分によってアナフィラキシーをおこしたことが明らかな方
- ④明らかに免疫機能に異常のある病気をもっている、または免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ⑤上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

アナフィラキシー
通常、接種後30分以内
に出現する呼吸困難や全身性じんましんなどを伴う重いアレルギー反応のことです。

予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害など基礎疾患のある方
- ②予防接種を受けた後2日以内に発熱のみられた方や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④過去に免疫不全の診断がなされている方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ワクチン成分によってアレルギーをおこすおそれのある方

おたふくかぜワクチンの副反応

局所症状	注射部位の赤み・はれ	通常、一過性で数日中に消失
全身症状	発熱、耳下腺のはれ、嘔吐、咳、鼻汁	接種後2～3週間ごろ、通常、一過性で数日中に消失
過敏症	発疹、じんましん、赤み、かゆみ	接種直後～数日中

重い副反応として、非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）、無菌性髄膜炎、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、血小板減少性紫斑病、難聴、精巣炎、急性睪炎の報告があります。

接種から3週間前後に、高熱が続く頭痛・嘔吐などがみられた場合は、ワクチンによる髄膜炎発症の可能性があります。

接種後、高熱などの異常がみられた場合は、接種した病院等で医師の診察を受けましょう。

沖縄市役所 子育て相談・健康課予防係 098-939-1212（内線2232・2233）

※このリーフレットの情報は令和4年3月現在のものです。